



* * * 報告 * * *

つくば市の子育て支援を考える 子育てのわ 2007～2008 子育てに欠かせないこと・譲れないこと ～次世代に何を伝え、何を遺すのか～

去る3月29日(土)に、「つくば市の子育て支援を考える 子育てのわ 2007～2008」を開催しました。今回は、「子育てに欠かせないこと・譲れないこと ～次世代に何を伝え、何を遺すのか～」をテーマに、無相庵菩提禅堂(かすみがうら市)老師の形山睡峰先生にご講演いただきました。

お話しいただいた後は、当日の23名の参加者が先生を囲み、なごやかな雰囲気の中で「子育てにおける親の役割」や「今、日本人が忘れてしていること」など、広く深く、さまざまなことを話し合いました。

以下では、当日の形山先生のお話の内容をご紹介します。

世の中には、「目先の損得だけを考えて子育てをする親」と「百年先のことまで考えて子育てをする親」の2種類があります。目先の損得だけを考えている人たちは、自分の価値観ではなく他人の価値観で自分自身を決めようとしているので、何かと人と比べては悩んでいます。

「早く しなさい!」と子どものお尻を叩いてばかりで、子どもがどんな気持ちでいるか、何が子どもにとって本当に楽しいことが、悲しいことがわからない親が多いです。嬉しいことは誰かに賛同してもらえらるともっと嬉しくなります。一緒に悲しんでくれる人がいるから悲しいことにも耐えられますし、一緒になって悲しんでくれるからこそ悲しみはより深いものになります。でもそういうことがわからないので、今、自分が思っている楽しいこと・悲しいことで子どもを育てている親たちの多さに気づかされます。旅行に行った、映画を見たといった「イベントをした」ことを重要視していて、どう考えたかなどを親子で対話することがあまりありません。これも目先の損得だけで生きているからだといえましょう。

子育てにおける親の責任とは

動物は、子が一人で生きていけるように訓練します。人間も、親が死んでも国がどうなっても自分の力でなんとか生きていこうとする力を、早いうちに子どもに身につけさせなければいけません。

子どもを早く自立させようとするときに大切なのは、人生の中で本当に楽しいことや悲しいことが何かを教えることです。レジャーに行った帰りの交通事故で死傷者が出た、というニュースではほとんど必ず、「楽しくあるはずの旅行が、不幸な結果に終わった」と言います。これは、「楽しくあるはずだ」と思っているのに、楽しくないことが起こるととても傷つくということのあらわれです。でも、「人生は楽しくあるはずがない」というのが長い間の見方でした。昔は、生きるということは面倒くさいものだ、しんどいことだと思っていたものですから、たまに楽しいことがあるとすごく嬉しかったのです。しかし、この何十年かの間に「人生は楽しくなければいけない」ということばかり教えられてきたようです。

仏教の基本は「人生は無常だ」ということです。明日がどうなるかはわかりません。事件や事故に巻き込まれてしまうこともあります。ですから、「私がいなくなったら」と考え、早いうちに、万が一のときには自立ができる最低限度のことを子どもに教えてあげることが親の責任なのです。それは「自分でできる」ということです。最も大事なことは、「隣の人とちゃんとコミュニケーションをとることができる」ということですが、なかなかこれができません。多くの親は「学校へ行っている間は親がサポートしてやればいい」と思っているし、また「お父さん、



お母さん」と呼ばれていると子どもに好かれている気がして、嬉しくて手を出してしまいます。これが大きな間違いで、いざとなったとき子どもが全然自立してくれないということになります。私の禅堂に、30歳を過ぎた男性が両親に連れられて相談に来ました。しかし、私が何を聞いても本人は返事ができず、親が代わりに答えるのです。子ども自身が、何が好きか嫌いか、本当はどうなのかを聞いたり考えたりさせないまま、親が代わりに答えることをして育ててきた結果です。

子どものことで相談に行くと「怒らず、子どもの好きなようにやらせてください」とアドバイスされることがありますが、その結果、子どもは家庭内で暴力を振るい、殺人にまでに至ることもあります。実はそのようなアドバイスは、子どもたちにとってはピン트가ずれているんです。「自分が苦しんでいるにもかかわらず、親は応じてくれない、逃げている」と感じるのです。親は「困ったら誰か先生に助けてもらおう」と人任せでいることに子どもは気づいています。こうした親は「子どものために一生懸命やってきました」と言いますが、それはつまり、一生懸命「お金を稼いできた」だけです。そして、どこに相談に行っても解決しなくて、最後に禅堂にやって来ます。

なぜ、大人がこんなことになったのかというと、一つの原因は「孤独」になることを捨てたからだろうと思います。「孤独」と言うと、さびしくて、誰も相手にしてくれる人がいないという、悪い意味にとられがちです。でも、そうではなくて、誰がいなくてもひとりで生きていけるのが「孤独」なのです。昔の偉い人は「一人でもさびしくない人間が、大人だ」と言いました。誰かに頼って、甘えていなければならないようなものは、大人じゃありません。今の大人は、地位や名誉、学歴といったものに全部頼っているように見えます。



親としての務め

「子どもに落ち着きがないから坐禅させてください」と来る親御さんを見ると、まず親が落ち着きがないですね。「うちの子、人の意見を聞かないんです」と言う親は、人の意見を聞かないで自分のことばかり言っています。そんな親の子どもが人の意見を聞くはずがありません。「この子は人の悪口ばかり言う」と言いますが、親も人の悪口ばかり言っています。子どもは、親が本音と建前でものを言っていることを敏感にキャッチします。だから、嘘をつかない子どもに育てようと思ったら、親が嘘をつかないだけです。思いやりのある子どもにしようと思ったら、親が思いやりのあることをし、思いやりのある生き方をすればいいだけです。言葉づかいの悪さも、どこでもゴミを捨てることも、食べ方の汚さも、同様に子どもに伝わります。

乱暴な言葉づかいをしないことや、人の悪口を言わないことは大切なことです。夫婦であろうと親しい人が長く付き合うためには、甘えず、何事も丁寧にするべきなのです。自分が苦しいときに、「夫婦だから慰めあって」というのは甘えです。自分の苦しいことは我慢して、相手の苦しみを聞いてあげることが大切です。いい夫婦というのは、「人が悪い」人たちです。「オレが悪かった」「いいえ、私が悪かったわ」「オマエが悪いはずがない、悪いのはオレだ」と、お互いに「悪い人」どうしが仲良くやっているのです。「オマエが をやったんだろう」「いいえ、アナタがやったんでしょう」と言いあうのは、「人(=自分)がいい」人たちだからです。「オレがいい」「私がいい」と言う、「いい人」どうしが悪くなっていくのです。

子どもに対しても同じで、油断して甘えてはいけません。日本人は、他人に出会った瞬間に言葉を相手によって微妙に遣い分けることで感性を磨いてきました。しかし、友だちのような親子が増え、場に応じた適切な言葉遣いができなくなっています。家ではよくても、社会では関係によって言葉遣いを変えるのが求められていますので、できないとパニックになります。場や相手に応じたきちんとした言葉遣いをすることによって、子どもは、大人はいろいろな人間関係の中でいくつもの役割をこなしていることを学び、社会にスムーズに出ていけるのです。

今は父親と母親が友だちのような関係になっているので、父親の威厳がないばかりか、叱ると自分のイメージが悪くなるし、ずっと好かれていたいから、親は子を

形山睡峰 先生

昭和24年岡山県生まれ。花園大学修了。

昭和63年(株)カスミ創業者神林照雄氏が建立した菩提禅堂の堂長に就任。

平成19年「無相庵・菩提禅堂」を開創し、庵主として現在に至る。

主な著書に『幸せに生きるためのヒント』『人生に迷った時のヒント』(光雲社)がある。

叱りません。しかし、社会に出た時に損するようなことはちゃんと叱らなければなりません。「これはダメだな」と思ったら、すぐさま「今のこと」で叱り、子どもの目をじっと見て、その後は短く子どもを褒めればいいのです。ただし、長々と叱ったり、先に褒めたり、褒めすぎるのはよくありません。

「我が家は豊か」だと思わせず、「貧乏だ」と思わせることも大切です。つまり、「何でもすぐ手に入る」と思わせないことです。「ある」ことに慣れてしまい「ない」ことがわからないと、思いやりは生まれません。また、大人はとても苦労してお金を得ていることを、早く子どもに伝えましょう。大人になったら常識が身につくと思っていたら大間違いです。教わらなかったことは身につけません。

親は、親になるための「ルーツ」があったことを子どもに伝えることが大切です。子どもが生まれるためには父親と母親の2人がいて、さらにそれぞれに両親がいて、 $2 + 4 + 8 + 16 + \dots$ と計算していくと、何億、何兆という親がいたことになります。そういう「親」がずーっと続いてきて、どこかで子どもを産まなければあなたはいなかった、命のリレーが続いているんだよ、と子どもに伝えるべきです。それを忘れないようにするために先祖をまつのです。それは決して宗教くさいことではありません。無限の命の先端に自分がいるということを確認することなのです。それをせずに頭の中で「個」や「私」ということばかり考えてしまうから不安になるのです。生きることの充実、自分の頭で考えてわかるものではありません。それを知らないから不安になり、子育てのノウハウを知ろうと手を替え品を替え、人の意見ばかり聞いて、目先の損得で子育てをする親が多いのです。

NEWS!

「つくば子育てべんり帳 2008」ができました！



ままと～んの編集で、「つくば子育てべんり帳 2008」が完成しました。子育て情報満載の、まさに「べんり帳」です。コンパクトなサイズですが、イラストや写真も豊富で、とても使いやすい冊子です。子育て中の方のみならず、支援者の方々にとっても、つくば市の子育て支援の基礎知識が学べる1冊ですので、ぜひ、お手にとってご覧ください！

配布場所は・・・各庁舎（春日庁舎を除く）1階窓口センター
各保健センター
けやき広場（つくば市子育て支援センター）
こども課子育て支援室

NEWS!

「かるがも・ねっと」のホームページを開設しました。！

懸案の「かるがも・ねっと」のホームページを開設することができました。開設にあたっては、市民活動センターの協力をいただきました。URLは、次の通りです。

<http://tsukuba-karugamo.net/>

つくば市で子育て支援に携わっている皆さんに向けて情報を発信していきます。ホームページが支援者の情報交換の場になればと思います。「ニュース」や「お知らせ」、「サークル・団体情報」をお寄せください。お互いの活動をつなぐために、「かるがも」のホームページをご活用ください。

< 総会・学習会開催のお知らせ >

2008年度の総会と第1回学習会を次の日程で開催します。ご出席・ご参加ください。

日時：7月5日（土） 総会：13時30分～ / 学習会：14時30分～

会場：市立二の宮公民館 和室

学習会：これからの支援の場にもとめられるものは？ - けやき広場の5年間を振り返りながら -

つくば市地域子育て支援センター「けやき広場」が開設されて5年が経ちました。今回の学習会では、開設当初から「けやき広場」でたくさんの親子を見守り、相談にのってきた喜多路江・かるがも・ねっと代表が、この5年間の変化についての話題を提供、皆で、これからの支援の場に求められるもの、心がけていく必要があるのはどんなことが、話し合っていきたいと思います。

お知らせ

つくば子育て広場 ～障害児の親子を応援する「すぺーす結」の杉井さんをお迎えして～

「すぺーす結」は、病気や障害のある子どもがいる家族が、地域で楽しく子育てするための、集いの場です。「つくば子育て広場」では今年度、障害児やその家族を理解する機会、交流する機会を作っていきます。どなたでもご参加ください。

日時：6月27日(金) 10時～12時 場所：並木公民館 参加費：300円
お問い合わせ先：つくば子育て広場 TEL：861-9765(富岡)

ままと～ん イベント情報

*「Re:パース ～お産の喜怒哀楽を語り合う～ vol.2」

あなたはどんなお産でしたか？ お産は女性の心と体の奥深くを揺り動かす一大事。その人の過去を映し出し、未来に響いていきます。

お産で得たよろこび、学び、伝えてみませんか。胸のうちの悲しみ、苦しみを整理してみませんか。お産の体験を語りあうことで、あなたの子育て、次の女性のお産に繋げていけたらと思います。ざっくばらんに語り合い、お産の体験を分かち合いましょ。妊婦さんの参加も大歓迎です。(注意：産院の情報交換の場ではありません)

日時：7月18日(金) 9時30分～11時30分 場所：小野川公民館 和室
対象：出産経験者、妊婦 (子ども連れ可) 参加費：無料 予約：不要

* ままと～んつどいの広場 夏休み特別企画 「ちびと～んの林で遊ぼう！」

ままと～ん事務所裏にある雑木林「ちびと～んの林」でダンボールや新聞紙で基地を作ったりボール遊び、炊き出し、etc... 子どもと一緒に「夏」を満喫しませんか
赤ちゃんの参加も歓迎です。虫刺され対策を忘れずに～！

日時：7月24日(木) 10時～14時 場所：ままと～んつどいの広場 ちびと～んの林

参加費：1家族100円(材料費として) 予約：不要

お楽しみとしての炊き出しはありますが、昼食はありませんので、必要な方はご持参ください

*上記のお問合せ先：ままと～ん TEL&FAX：838-5080

つくばセンター広場を楽しくする会 「七夕飾りをつくろう！」

つくばセンター広場に七夕飾りを作りましょう。子育てグループや支援グループ、その他子どもに係わるグループ毎に竹を一本用意しますので、それぞれ飾るものを作って、参加してください。詳細は改めてお知らせしますので、参加希望の方はFAXで下記の連絡先にお申し込みください。

日時：8月2日(土)・3日(日) (2日に飾り付けをして、3日に展示します)
主催：つくばセンター広場を楽しくする会 (TEL&FAX：851-5263)

発行：つくば市子育て支援ネットワーク **かるがも・ねっと**

「かるがも・ねっと」は、つくば市にある子育て支援に関わる機関・団体・サークル、ボランティアのネットワークです。

発行日：2008年6月16日

編集：飯田浩之・遠藤宏美

連絡先：【E-mail】karugamo_net@yahoo.co.jp

【FAX】029-853-4829 (筑波大学共生教育学(教育社会学)研究室)